

宮私幼PTAだより

第 84 号

発行者 連合会
宮私幼PTA美者
(会長) 渥美 集
編集委員 会
事務局 青葉区国分町三丁目6-12 佐正第二ビル6F
電話 (022) 263-7040 番



子ども・子育て支援新制度と 少子化問題について

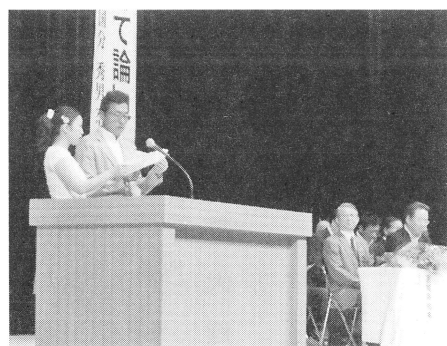
会長 渥 美 巖

来年四月から施行予定の、子ども・子育て支援新制度では、子ども・保護者の置かれている環境に応じ、保護者のニーズ等に基づき幼稚園・保育所・認定こども園等の特性を生かし、良質かつ適切な教育・保育・子育て支援を総合的に提供する体制を整備することを目的としており、実施主体である市町村には、独自のビジョンに基づき、域内の就学前教育・保育について、一体的にその量的拡充・質の改善を図ることを求めています。新制度は、質の高い幼児教育を全ての子どもに保障することを目指しているが、これまで幼児教育の中核的役割を果たしてきた私立幼稚園が建学の精神に基づき、特色ある教育活動を行ってきたことが、実施主体となる市町村に正しく評価されるか、幼児教育無償化や財政支援がどうなるのか、幼稚園長さん方は不安を持っており、必要に応じた見直しについて、宮私幼PTA連合会として関心を持って参りたいと思います。

五月に、民間の有識者らでつくる『日本創生会議』が、二〇四〇年には二十歳から三十九歳の若年女性が五十%以上減少し、人口が一万人を切る自治体は、全国一八〇〇の約三割にあたる五二三となり、消滅の可能性が高いという衝撃的な指摘をしております。

若い世代が安心して結婚し子育てのできる環境整備が必要であり、国・地方はもとより、地域社会や企業などが世代を超えて協力し、子育てを支え合う社会を築き上げ、『地方が元気になる少子化対策』を、講ずるべきであります。

私は、六年前の会報第七十二号で『人口維持政策こそ全ての政策に優先すべし』と題し、国家として少子化の原因を探り、具体的対策を急ぎ講ずるべきと述べましたが、遅ればせながら今からでも、少子化対策の抜本的強化に取り組み、合計特殊出生率も改善されるものと思います。少子化に伴う人口減少が主要要因で、消滅する自治体が宮城県内で生じないことを願っております。



宮私幼教育振興大会並びに 宮私幼PTA研修大会を終えて



蒲町幼稚園P
研修部長 若 生 加 奈

平成二十六年、宮私幼教育振興大会並びに第四十三回宮私幼PTA研修大会が、去る六月十八日東京エレクトロンホール宮城にて開催されました。当日はたくさんのPTAの方々に参加して頂き、盛大な大会となりました。

「幼児教育の再生に向けて」子育ては、親と地域と幼稚園」というスローガンのもと第一部の振興大会は行われました。

「幼児一人ひとりの自立のためには、適切な環境での体験や人との関わりの中での『生きる』を育てなければいけない。そのためには親と地域と幼稚園の絆を高めていく必要がある。経済的負担を軽くするために公的助成の拡充を引き続き関係機関に求めていく。」という大会宣言がありました。

第二部の研修大会は、東北福祉大学特任教授で元古川商業（現古川学園）高校バレーボール部監督をされていた国分秀男先生を迎え「夢を見て・夢を追いかけて・夢を食う」私の子育て論」と題して講演をいただきました。

人を育てるポイントとは三つ。

一「何かを話す時は具体的に一つか二つ。三つ以上は覚えてもらえない。褒める時は大きく喜んで褒める」子どもが本気を出す時は夢や生きがいを持った時、褒められ認められた時と褒美がある時である。どんなに小さなことでも大きく喜んで褒めることによって、子どもはどんどん伸びる。先生ご自身も子どもの頃、とても喜ばれ褒められた時のことが今も鮮明に記憶にあり、それは頑張る大きな力になったそうです。

二「目（視覚）」に訴える指導を取り入れる」夢や目標は「言葉」にし「文字」にすると実現できることが多い。ポスターでも良い。目標・夢を目にするたびに、それに向かって追い続けることが大切



なことです。監督時代には、ポスターを貼って生徒と共に頑張り続け、全国大会初優勝という快挙を達成されたそうです。

三「聞き上手になる」子どもの話はしっかりと聞いてあげる。そして「やりなさい」ではなく「一緒にやろう」の一言が大事。その一言でやる気は変わる。

最後に、子どもを育てるためには、まず自分を育てることが大事。良いものに接し、聴き、読むことにより、自分を豊かに育てることで、いずれ子どもにも良い影響を与える。子どもの立場になり、見てわかる指導をすることが大切であるとお話してくださいました。

先生は、終始きみまる節の笑いを交えながらのお話で、とてもわかりやすく、一つひとつが「なるほど・確かに」と改めて考えさせられる内容ばかりでした。

「夢を見て・夢を追いかけて・夢を食う」この言葉と意味を息子にも教え、共に実践したいと思っております。

会員のひろば

みなさんに支えられて

ふじ幼稚園 (P)

成澤 真紀



年長の娘は入園前から泣いてばかりで、笑顔で元気に「行ってき

ます」と言える日はいつ来るのかと、私も毎日心配しながら送り出していました。

先生や周りのお友達に支えられ今ではたくましくなったと言われているほどの成長ぶりを見せてくれます。園での出来事をあれこれ話してくれますが、できるようになったこと、それを家族に分かるような言葉遣いで話すことなど、お姉さんになったなあと感じるころです。

長男の時から五年間お世話になっている園との関わりも今年で最後だな...と思っていた矢先、父母会の会長を務めることになりました。慣れないことに不安を感じるといのはこんなふうだったのかと、今更ながら娘の気持ちがかかったと思います。しかし娘同様みなさんの支えのおかげで今では楽しく活動させていただいています。

親になったからこそ今回の経験。私も子ども達とともに成長していけるチャンスととらえ、卒園までの日々を過ごしていきたいと思っています。

ひとりじゃない

浄心幼稚園 (P)

遠藤 ひとみ



私には三人の息子がいます。三人共浄心幼稚園にお世話になりま

した。同じ家で育った三人ですが三人三様で、これはどうしたものかと悩む事もありました。そんな時担任の先生に、子ども達のそれぞれの良い所を話してもらって、親の私よりもたくさん子ども達と向き合っていて、若いのにすごいなあと思った事がありました。

仕事をしながら、子ども達と向き合うのは大変ですが、私にはたくさんさんの応援団が居る事に気づきました。家族はもちろんですが、園の先生や子ども達の事を理解してくれる職場の方々、そして友人達。子ども達の色々な人に関わっていて、いろんな事を思いながら成長しているのだと思います。

最近子ども達もそれぞれ自分の事は自分で出来る様になりました。ほととずする時間ができました。そんな時、みんなに助けられて私達はこうして笑って暮らしているんだなあ。幸せだなあと感じます。

私のまわりの人達も子育てに奮闘しています。少し余裕が出来た私から、子育てはひとりじゃないんだから、何かあったら言ってねと声をかけたいと思います。そして子育ては大変だけれど楽しいねと笑いたいと思います。

お父さんの会

中新田幼稚園 (P)

浅野 大輝



「イクメン」と言う言葉が流行し、父親の育児への参加・協力が積極

的になってきた近年、中新田幼稚園では約十三年前からお父さんが主体のお父さんの会が積極的に活動をしていました。長男が入園した当初は、園行事には参加するものの育児にはあまり関わりを持てずにいました。入園から一年が経った頃、先輩のお父さんたちからお父さんの会への勧誘を受けました。知り合いが少ない中で周りのお父さんたちとうまくやって行けるか不安でしたが、皆さん温かく迎え入れてくれました。

お父さんの会での活動は園行事での裏方・奉仕作業のほか、夏・冬二回のイベントの企画、運動会での仮装行列など一年を通して盛り上がりを見せています。忘年会や新年会などで親睦を深め、子育て論や今後の活動内容について熱く議論を交わす事もあります。お父さんの会を通じて子ども達と一緒に楽しみながら共に成長し、家庭での子育てにも積極的に関わりを持つことによって、地域社会とともにもっと豊かに成長できるよ、これからも活動を続けて行きたいと思っています。

平成二十六年度役員名簿

平成二十六年度
今後の会活動予定

会長 渥美 巖 矢本はなみ P
副会長 中島 源陽(体)いわてやま P
" 鈴木 友貴(体)利第二おおぞ P
" 稲富 将夫(広)矢本はなみ P
" 横澤 行夫(研)お人形社第二 T

監事 庄子 俊明(体)大野田 T
" 佐藤 麻季(体)もみじが丘 P
" 成沢 真紀(研)ふじ P
" 小野 暢彦 清水 T
" 寺澤 正志 八幡花園 P

常任委員長 佐々木幸士(体)富沢 P
" 岩山 伸次(体)東盛 P
" 菅原 彰(体)すがわら T
" 吉田 亨(体)草の芽星谷 P
" 友川 栄広登 米 T
" 浅野 大輝(広)中新田 P
" 日野 雅敏(広)右巻方トリック P
" 佐々木りか(体)利第二おおぞ T
" 小山佳子(体)もみじが丘 T
" 鈴木 信子(研)ふじ T
" 遠藤ひとみ(広)浄心 P
" 吉岡 弘宗(研)岩切東第二 T
" 佐々木拓真(広)三ツル T

委員

赤坂 典子(広)豊リストラ T
米澤 孝雄(体)わかさ T
◎若生 加奈(研)蒲町 P
◎吾妻 夕子(研)蒲町 P
◎高橋 祐子(研)仙豆 M C A T
石川イネ子(体)草の芽星谷 T
" 尾形ゆかり(広)登米 P
" 岩岡 明子(広)中新田 T
" 我妻奈緒美(広)浄心 T
" 中野 正志 お人形社第二 P
" 中沢 幸男 宮城学院附属 P

顧問

◎各部会部長 ◎各部会副部長
" 中沢 幸男 宮城学院附属 P

(研) 研修部 (体) 体育部
(広) 広報部

あ と が き

澄み渡る、爽やかな秋風とともに「宮私幼PTAだより八十四号」をお届けいたします。

「宮私幼PTAだより」はメールやSNS全盛の現代社会において幼稚園、市町村の垣根を越え紙面を通じての交流は子育て世代のわたしたちにとって日々の思いを分かち合う貴重な機会ではないかと考えます。

御多用中のところ、本号にご寄稿いただきました皆様に心より感謝を申し上げます。

お礼の言葉を持ちまして、あとがきとさせていただきます。ありがとうございます。

(広報部長)